

非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

金

【海外】

1. 価格推移

| 7 月相場 | 高値 | 安値 |
|----------------|-------------------|-----------------|
| ロンドン相場(\$/toz) | : 1,267.55 (31 日) | 1,207.55 (10 日) |
| 国内建値(円/g) | : 4,531 (31 日) | 4,465 (14 日) |
| 為替相場(円/\$、TTS) | : 111.35 (31 日) | 115.22 (11 日) |

7 月の海外金相場は 3 日に\$1,235.20/toz(トロイオンス)で始まり、上旬にかけては頭の重い展開が続いた。10 日には、好結果だった 6 月の米雇用統計を受けてドル高が進んだこともあり、\$1,207.55 まで下落した。

ところが、それ以降は、トランプ氏とロシアの不透明な関係を巡る「ロシアゲート」問題等の米国の政治リスクが高まり、相対的に安全な資産とされる金を買う動きが強まり上昇に転じた。更に、米連邦準備理事会(FRB)のイエレン議長が 12 日の米議会証言で「今後数か月は物価動向を見極める」と述べ、利上げなど金融政策の正常化を慎重に進める姿勢を示した結果、金市場への資金流入が細るとの警戒が薄れ、\$1,230 水準へと上昇した。

追い打ちをかけるように、18 日には米上院が医療保険制度改革法(オバマケア)代替法案の採決を断念し、米国での法人減税など経済政策への期待が後退し始めたことで、安全資産とされる金に投資資金が流入、週明けの 24 日には\$1,255.55 まで上昇し、1 か月ぶりに高値をつけた。さらに、26 日の FRB の政策金利据え置き声明によりドル安が進行、これを受けて金を買われ、週明けの 31 日には\$1,267.55 まで伸し、1 か月半ぶりの高値をつけて越月した。

2. 為替相場推移

7 月の為替相場は 3 日に\$1=113.22 円(TTS 相場、以下同じ)と反落してスタート、上旬にかけては欧米金利が上昇し、日本と欧米の金利差が拡大するとの観測から円売り・ドル買いが優勢だったことで円は続落基調を辿った。4 日の北朝鮮による大陸間弾道ミサイル(ICBM)発射が一時的な円買いを誘ったが、その影響は限定的だった。10 日には 7 日に発表された 6 月の米雇用統計を受けて米連邦準備理事会(FRB)が金融政策の正常化を続けるとの観測が強まったことから\$1=115.17 円まで

円安が進んだ。

ところが、中旬入りすると、ロシアと米国のトランプ政権の関係を巡る疑惑再燃や12日のイエレン米連邦準備理事会(FRB)議長の議会証言を受けての米利上げペースの鈍化が意識されたことで、円買いが復活、13日以降、円は対ドルでじりじりとその水準を上げていった。14日には米消費者物価指数(CPI)が市場予想を下回る結果となり、FRBによる追加利上げ観測が後退、さらに18日には米与党共和党が医療保険制度改革(オバマケア)の代替法案の採決を断念したことで、米国の景気刺激策の実行が遅れるとの見方が出て、円は\$1=112円水準まで急速に買われることとなった。

週明けの24日には、欧州中央銀行(ECB)が金融政策を正常化するとの観測が強まったほか、米国のトランプ政権の行方に不透明感が増したことを背景に\$1=111円水準まで円が買われた。さらには、26日にFRBが市場の予想通り政策金利を据え置くと発表したことで、円が続伸、31日には\$1=111.35円と1か月半ぶりの円高・ドル安水準をつけて越月した。

一方、円は対ユーロではユーロ高が加速した。欧州中央銀行(ECB)が金融緩和の縮小に向けた動きを進めるとの観測が市場で高まり、ユーロ買いが膨らんだ。12日には€1=132.01円と2016年2月以来およそ1年5か月ぶりの円安・ユーロ高となった。

【国内】

1. 建値推移

7月の国内金山元建値は3日に4,502円/g(グラム)でスタート、上旬から中旬にかけては海外相場の軟調推移から4,500円水準を下回る展開となった。ところが、下旬には、海外相場の上昇から4,500円台を回復、円高の影響でその伸び率は海外相場ほどではなかったものの、31日には4,531円と月間最高値をつけて越月した。

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2017年6月分=平成29年6月分)

| | | | |
|----|---|----------|------------------------|
| 生産 | : | 9,774 kg | (前月比 2.0%増、前年比 6.6%減) |
| 出荷 | : | 9,962 kg | (前月比 2.4%増、前年比 3.1%減) |
| 在庫 | : | 6,243 kg | (前月比 2.9%減、前年比 20.1%増) |

(生産、出荷、在庫の出典は経産省生産動態統計調査)

6月の生産は前月比増となったが、前年同月比は5か月連続の減と低調。出荷は2か月連続で前月を上回るも、前年同月比では2か月ぶりの減少となった。在庫は前月比では2か月連続で減少するも、前年同月比では3か月連続の二桁増となった。

銅

【海外】

2017年7月のLME銅相場は月初\$5,894/tでスタートし、ドル高により中旬には\$5,700台まで下落したが、下旬に入り為替がドル安に転じたことと中国がスクラップの輸入を制限するという報道から一段高となり、月末にかけて2015年5月以来となる\$6,300台へと急伸した。

ドルは対ユーロで月初の\$1.13台から月末にかけて2015年1月以来となる\$1.18台へと下落した。月間ベースでは5か月連続の下げで2011年以降では最長の連続安となった。その背景として、オバマケア(医療保険制度改革)の見直しが与党共和党の一部の反対で見通しが立たなくなるなど、トランプ政権の政策実行力に不透明感が強まったことがあげられる。また、米連邦準備制度理事会(FRB)は米経済のインフレ圧力が緩慢なことから追加利上げを見送った。更に、GDP成長率が第1四半期に前期比1.4%から1.2%に下方修正され、第2四半期は2.6%と加速したものの市場予想を下回った。

中国経済は第2四半期GDPが前期比横ばい、前年同期比6.9%と市場予想を僅かに上回った。工業生産と消費が上向き、投資は引き続き堅調であった。これを受け、国際通貨基金(IMF)は中国の今年と来年のGDP成長率見通しを上方修正した。

銅独自の要因としては、次のような複数の供給障害要因が材料視された。

グレンコア社は、アルンブレラ銅鉱山(アルゼンチン)が7月13日、環境汚染の訴えを受けてアルゼンチン連邦裁判所から操業停止命令が下されたことを明らかにした。同鉱山は鉱量枯渇のため、来年に閉鎖される予定。

カナダBC州の山火事の影響でインペリアルメタルズ社のマウントポリー銅鉱山が7月15日に操業を停止したが、19日に再開し、8月2日までに正常操業を回復した。タセコマイズ社のジブラルタル銅鉱山も17月に操業を一時停止したが、その後徐々に回復した。

中国モリブデン社のテンケフングルメ銅コバルト鉱山(コンゴ民主共和国)は7月15日火災に見舞われ、クワテバラ選鉱場に電力を供給する変圧設備が電気ショートを起こしたが、19日に操業を再開した。

ペルー全国冶金鉄鋼労組(FNTMMS)は政府が労働者の解雇条件の緩和、低賃金若年労働者の雇用促進、労働者の利益配分比率の引き下げなどを認める政令を公布したことに抗議して、7月19日無期限ストを開始し、アンタミナ、セロベルデ、サザンカパーなど50以上の労組がゼネスト支持した。しかし、クチンスキー大統領が労組との協議を約束したため、FNTMMSはストを解除し、24日までに職場復帰した。協議は8月に開始される。ストによる鉱山生産への影響は軽微であった。

一方、アントファガスタミネラルズ社は7月14日、センチネラ銅鉱山(チリ)管理職組合と労働協約に合意したと発表した。2か月近く続いた直接交渉が決裂し、労組はスト権を確立したが、最終的に仲裁調停案を受け入れた。有効期限は36か月間。チリ新労働法制定後初めての労働協約。新労働法では既存の従業員の賃金や手当の引き下げは許されない。

アントファガスタミネラルズ社とサルジバル銅鉱山(チリ)労組との労働協約更改交渉も6月30日決裂し、労組は7月10日スト権を確立したが、仲裁調停により24日に新協約が合意され、ストは回避された。有効期間は36か月。

ハイランドバレーカパー社のハイランドバレー銅鉱山(加)労組は7月16日、労働協約更改交渉が難航しているためスト権を確立したと発表した。交渉は2016年8月から続いている。

需給動向については、国際銅研究会によれば、2017年1~4月の世界の銅鉱石生産は前年同期比3.4%減6,225千t、地金生産は横ばいの7,669千t、消費は3.3%減の7,589千t、この結果、地金需給バランスは前年同期の▲185千tから+80千tへと供給過剰に転じた。報告在庫は1.8%増の1,473千t、在庫/消費比率は2.9週間から3.1週間へとやや上昇した。

鉱石生産の内訳は精鉱が3%減少、SXEWは5%減少した。国別にはチリがエスコンディーダ鉱山のストライキとコデルコの鉱石品位低下の影響で12%減少した。カナダとモンゴルは低品位鉱体へのシフトの影響でそれぞれ19%、22%減少した。インドネシアは1~4月の精鉱輸出禁止により14%減少した。メキシコ、ペルーは鉱山の新設、増強によりそれぞれ13%、7%増加した。地域別にはヨーロッパが4%、オセアニアが7%増加、アメリカは6%、アジアは1.5%、アフリカは4%減少した。鉱山稼働率は84.5%から78.3%に低下した。

地金生産の内訳は一次生産が2%減少、二次生産は12%増加した。二次生産はとくに中国のスクラップ供給の増加を背景に増加した。国別には中国が6.5%増加、メキシコはSXEW生産能力の増強により11%増加した。しかしながら、チリは電解、SX/EW生産ともに減少し16%減少した。日本、米国も減少した。地域別にはアジアが4%、アフリカは3%、ヨーロッパは2%増加したが、アメリカは10%、オセアニアは11%減少した。精製工場の稼働率は86.3%から84.2%に低下した。

消費は中国を除く世界合計が0.5%増加したが、中国の見掛け消費の減少に相殺された。中国の見掛け消費(未報告在庫の増減を除外)は7%減少した。国内生産が6.5%増加したが、ネット輸入が36%減少したことによる。その他の主要国ではインド、日本、台湾が増加したが、米国、ドイツは減少した。地域別にはアフリカが1%、アジアは3%減少(中国を除くアジアは7%増加)、アメリカは1%、ヨーロッパは6%増加した。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

7/3 710 7/6 700 7/12 710 7/24 700 7/26 740

1. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2017年6月分=平成29年6月分)

生産 : 128,561t (前月比 0.2%減、前年比 2.0%減)

出荷 : 130,620t (前月比 8.9%増、前年比 6.2%減)

在庫 : 103,406t (前月比 0.9%減、前年比 2.3%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

平成29年(2017年)6月の銅地金生産は前月比0.2%減、前年同月比は2.0%減の128.6千tと前年比は3か月連続の減少となった。出荷は前月比が8.9%増、前年比は6.2%減の130.6千tで前月比は3か月ぶりに増加、前年比は2か月連続の減少。内訳は内販が前月比7.8%増、前年比0.1%増の82.4千tで前年比は11か月連続の増加、輸出は前月比10.7%増、前年比15.2%減の48.2千tで前月比は3か月ぶりの増加、前年比は2か月連続の減少。内販のうち電線向けは前年比4.9%減の49.6千t、伸銅品向けは9.2%増の29.3千tと13か月連続の増加。在庫は前月比0.9%減、前年比2.3%増の103.4千tで前年比は3か月ぶりの増加となった。

2. 需要部門別動向

日本電線工業会によれば、平成29年(2017年)6月の銅電線出荷は前月比12.9%増、前年同月比3.1%増の57.8千t(推定)と4か月連続の前年比増となった。うち内需は前年比2.5%増の56.3千t4か月連続の増加、輸出は29.8%増の1.5千tで2か月ぶりの増加。内需の部門別には、自動車は14か月連続、その他内需は8か月連続、通信は2か月連続、電気機械は2か月ぶりの増加、一方、建設電販は2か月ぶり、電力は10か月連続の減少となった。

日本伸銅協会によれば、平成29年(2017年)6月の伸銅品生産は前月比9.7%増、前年同月比は6.5%増の73.0千t(速報)と前年比は11か月連続の増加となった。うち内需向けは前年比5.8%増の60.3千tで11か月連続、輸出は9.9%増の12.7千tで8か月連続の増加。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が14か月連続、コネクタ向けの青銅板条は10か月連続、自動車端子向けの黄銅条は6か月連続、エアコン向けの銅管は4か月連続の増加となった。

鉛

【海外】

2017年7月のLME鉛相場はドル安を主因に前月比一段高の\$2,200~2,300/t圏を堅調に推移した。

ドルは対ユーロで月初の\$1.13台から月末にかけて2015年1月以来となる\$1.18台へと続落した。月間ベースでは5か月連続の下げで2011年以降では最長の連続安となった。その背景として、オバマケア(医療保険制度改革)の見直しが与党共和党の一部の反対で見通しが立たなくなるなど、トランプ政権の政策実行力に不透明感が強まったことがあげられる。また、米連邦準備制度理事会(FRB)は米経済のインフレ圧力が緩慢なことから追加利上げを見送った。さらに、GDP成長率は第1四半期が前期比1.4%から1.2%に下方修正され、第2四半期は2.6%と加速したものの市場予想を下回った。

中国経済は第2四半期GDPが前期比横ばい、前年同期比6.9%と市場予想を僅かに上回った。工業生産と消費が上向き、投資は引き続き堅調であった。これを受け、国際通貨基金(IMF)は中国の今年と来年のGDP成長率見通しを上方修正した。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2017年1~5月の世界の鉛鉱石生産は前年同期比12.7%増の2,150千t、地金生産は7.2%増の4,882千t、消費は10.3%増の4,973千t、地金需給バランスは前年同期の+45千tから▲91千tへと供給不足に転じた。

鉱石生産はアジアが26.9%、ヨーロッパは5.2%、アフリカは2.4%増加、アメリカは横ばい、オセアニアは25.3%減少した。国別には中国、インドの増加がオーストラリア、ペルーの減少を相殺した。地金生産はアジアが10.4%、アメリカは5.2%増加、ヨーロッパ、アフリカは横ばい、オセアニアは11.8%減少した。国別には中国、インド、韓国、米国が増加した。消費はアジアが11.8%、アメリカは13.7%、ヨーロッパは1.7%増加、アフリカは4.8%、オセアニアは25.0%減少した。国別には米国が輸入の急増で増加、中国も増加した。5月末の地金の報告在庫は前年同月比3.5%増の530千t、在庫/消費比率は2.5週間から2.3週間に低下した。

中国は鉱石生産が23.3%増の1,144千t、鉛精鉱輸入は4.9%減の272千t、地金生産は12.8%増の2,089千t、地金の輸出入は12千tのネット輸出から41千tのネット輸入に転じた。この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫)は13.7%増の2,076千tとなった

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

6/22 297 7/3 314 7/11 319 7/25 305 8/1 314

7月鉛建値はLME鉛相場に合わせ一段高で推移した。

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2017年6月分=平成29年6月分)

生産 : 16,964t (前月比 1.7%減、前年比 2.0%増)

出荷 : 18,730t (前月比 14.1%増、前年比 8.5%増)

在庫 : 8,114t (前月比 18.1%減、前年比 67.1%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

6月の生産は前月比では減少したが、前年同月比は8か月ぶりの増加となった。出荷は前月比、前年同月比とも増加し、前年同月比は6か月連続の増加となった。主力の蓄電池向けが夏の需要期を迎え15.6千tと前月比19.1%増、前年同月比8.7%増と堅調だったことも上昇の一因。在庫は前月比で3か月ぶりに減少、前年同月比は21か月連続の減少となった。

3. 需要部門動向

6月の自動車生産台数は前年同月比6.9%増の859,580台となり、8か月連続で前年同月を上回った。乗用車は前年同月比8か月連続でプラスだが、トラックは同2か月連続のマイナス、バスも同2か月連続のマイナス。乗用車の好調さが目立つ。

6月の自動車輸出台数は前年同月比4.3%増の425,462台となり、5か月連続で前年同月を上回った。

一方、6月の二輪車生産台数は前年同月比71.5%増の53,559台と9か月連続で前年同月を上回った。

(一社)電池工業会の調査によると、5月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、輸出用を併せた総合計で1,638千個(前年同月比7%増)と7か月連続で増加、自動車用以外の鉛蓄電池も462千個(同13%増)とこちらも4か月連続で上昇した。その結果、鉛蓄電池の出荷はトータルで2,100千個(同8%増)と8か月連続で増加した。5月の大型連休があったにもかかわらず、販売は堅調。

鉛関連製品生産統計

| | | 5月 | 6月(速報値) |
|----------|----------|---------|---------|
| 自動車 | 数量(台) | 693,142 | 859,580 |
| | 前年同月比(%) | 105.5 | 106.9 |
| | | 4月 | 5月 |
| 自動車用鉛蓄電池 | 数量(鉛量t) | 15,758 | 13,435 |
| | 前年同月比(%) | 108.5 | 113.6 |

(出所:(一社)日本自動車工業会, 経済産業省生産動態統計調査)

亜鉛

【海外】

2017年7月のLME亜鉛相場はドル安を主因に前月比一段高の\$2,700~2,800/t圏を堅調に推移した。

ドルは対ユーロで月初の\$1.13台から月末にかけて2015年1月以来となる\$1.18台へと続落した。月間ベースでは5か月連続の下げで2011年以降では最長の連続安となった。その背景として、オバマケア(医療保険制度改革)の見直しが与党共和党の一部の反対で見通しが立たなくなるなど、トランプ政権の政策実行力に不透明感が強まったことがあげられる。また、米連邦準備制度理事会(FRB)は米経済のインフレ圧力が緩慢なことから追加利上げを見送った。さらに、GDP成長率は第1四半期が前期比1.4%から1.2%に下方修正され、第2四半期は2.6%と加速したものの市場予想を下回った。

中国経済は第2四半期GDPが前期比横ばい、前年同期比6.9%と市場予想を僅かに上回った。工業生産と消費が上向き、投資は引き続き堅調であった。これを受け、国際通貨基金(IMF)は中国の今年と来年のGDP成長率見通しを上方修正した。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2017年1~5月の世界の亜鉛鉱石生産は前年同期比6.3%増の5,375千t、地金生産は5,585千tで横ばい、消費は1.1%増の5,763千t、地金需給バランスは前年同期の▲133千tから▲178千tへと供給不足幅が拡大した。

鉱石生産はアジアが10.3%、アメリカは1.8%、ヨーロッパは3.8%、アフリカは21.8%増加、オセアニアは6.0%減少した。国別にはエリトリア、インド、ペルー、トルコの増加がオーストラリア、米国の減少を相殺した。地金生産はアジアが横ばい、ヨーロッパは3.5%、アフリカは4.7%増加、アメリカは4.3%、オセアニアは1.5%減少した。国別にはインドの急増がカナダ、日本、韓国、ペルー、タイの減少に相殺された。消費はアメリカが13.0%、ヨーロッパは1.8%、オセアニアは20.0%、アフリカは18.6%増加したが、アジアは1.5%減少した。国別には米国の見掛け消費が前年の急減の反動で増加した。5月末の地金の報告在庫は前年同月比14.9%減の1,208千t、在庫/消費比率は5.0週間から4.6週間に低下した。

中国は鉱石生産が1,989千tで横ばい、亜鉛精鉱輸入は27.9%増の477千t、地金生産は2.4%減の2,439千t、地金のネット輸入は48.4%減の129千t、この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫/国家備蓄)は2.8%減の2,642千tとなった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

6/26 352 7/3 361 7/7 364 7/12 370 7/18 367 7/21 349
7/26 367 8/1 355

7月亜鉛建値はLME 亜鉛相場に合わせ一段高で推移した。

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2017年6月分=平成29年6月分)

生産 : 42,456t (前月比 9.9%減、前年比 9.6%減)
出荷 : 43,767t (前月比 7.5%増、前年比 0.9%減)
在庫 : 68,721t (前月比 1.9%減、前年比 23.0%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

6月の生産は原料不足から前月比、前年同月比とも減。前年同月比は5か月連続の減少で低迷状態から抜け出せず。出荷は内販が増加し前月比では増加したが、輸出減により前年同月比は4か月ぶりの減少となった。在庫は出荷増から前月比減、前年同月比は5か月連続の減少となった。

3. 需要部門動向

6月の鉱工業生産指数は前月比1.6%増、前年同月比4.9%増の101.7(季節調整済、2010年=100基準、速報値、以下同じ)となった。前月比は2か月ぶりの上昇、前年同月比も8か月連続のプラスとなった。大型連休で生産を減らした自動車など輸送機械工業が6月に入って生産水準を戻し、全体のけん引役となった。経産省は生産の基調判断を「持ち直しの動き」に据え置いた。

6月の生産指数は15業種のうち12業種が前月から上昇し、3業種が低下した。輸送機械工業が前月比4.2%上昇したほか、医薬品を除く化学工業が同3.4%、電気機械工業が同5.0%とそれぞれ上昇した。

併せて発表された4~6月の生産指数は前期比1.9%上昇の101.9となり、5四半期連続で上昇した。1~3月実績(同0.2%上昇)と比べ伸び率も拡大し1%台後半を回復した。

6月の出荷指数は前月比2.3%増の100.5と2か月ぶりにプラス、前年同月比も5.1%増と8か月連続の増となった。

一方、在庫指数は前月比2.2%減の108.9と7か月ぶりに低下、在庫率指数も前月比2.1%減の110.1と2か月連続で低下した。

大企業の生産見通しを示す製造工業生産予測指数では、7月が前月比0.8%、8月は同3.6%とともに上昇を見込んでいる。

5月の亜鉛めっき鋼板生産(次工程用消費を除く)は7か月連続で前年同月比プラスとなった。だが、数量は32か月連続で100万t台割れ。

5月の伸銅品生産量は66,528t(確報値、前年同月比6.7%増、前月比5.7%減)、2016年(平成28年)8月から10か月連続の前年同月比プラスとなった。5月としては2014年(平成26年)(70,715t)以来の高水準となった。銅条・管・棒、黄銅条・棒、青銅板条・棒線、洋白その他板条・棒線が前年比プラスとなった。

内需向けは55,209tで10か月連続の前年比プラス。輸出向け11,319tで7か月連続の前年比プラス。

黄銅製品では、黄銅条が前年比5.9%増の8,033tで5か月連続の前年比プラス。黄銅棒は前年比5.3%増の15,653tで13か月連続の対前年比プラスとなった。

亜鉛関連製品生産統計

| | | 4月 | 5月 |
|---------|----------|---------|---------|
| 亜鉛めっき鋼板 | 数量(t) | 877,908 | 890,197 |
| | 前年同月比(%) | 111.8 | 106.5 |
| 黄銅製品 | 数量(t) | 29,081 | 27,174 |
| | 前年同月比(%) | 103.7 | 104.2 |
| 亜鉛ダイカスト | 数量(t) | 1,759 | 1,510 |
| | 前年同月比(%) | 114.7 | 109.4 |
| 亜鉛華 | 数量(t) | 4,876 | 5,112 |
| | 前年同月比(%) | 126.9 | 123.2 |

(出所:経済産業省生産動態統計調査)